

大分大学ビジョン2040

今後の社会情勢・社会構造の変化を見据え、果たすべき役割・未来の姿を検討し、2022年1月に策定
(教育分野)

持続可能で多様性にあふれる社会を創生する人材を育てるための開かれた学びの創造

「社会の動向を見据え、地域社会との対話を大切にしながら、これからのグローバル社会で活躍する人材を育成」（抜粋）→①社会変革を創生する人材の育成
②世界と地域をつなげるグローバル人材の育成③インクルーシブ社会に向けた学びの機会の提供



附属小学校の使命：1.地域教育への貢献、2.教育実習生への指導、3.大学への協力

FUSYO VISION：「グローバルリーダーの育成（Think globally act locally）」→グローバルリーダーに必要な資質・能力を明確化。授業改善とカリ・マネを推進。成果を地域に還元する。



第4期（令和4年度～9年度）中期目標・中期計画

（地域貢献）未来の学校、地域、社会を戦略的にデザインするために、実践的指導力と創造的思考力・行動力を有した地域の“ひと・もの・こと”を支える教員養成・人材育成に取り組み、その成果を地域へ還元する。

大分大学では、ビジョン2040の実現に向けたロードマップとして、中期目標・中期計画を設定。その進捗状況について毎年度自己評価を実施し、その結果を公表する。（税金を原資とした多額の運営費交付金を交付されている本学が自律的な経営主体として、自らの活動について国・社会等のステークホルダーに説明責任を果たす必要がある。）以下、附属学校園に関係する項目を抜粋

◎「令和の日本型教育」の実現に向けて、資質・能力を有する教員を養成するため、学部・大学院と連携して「指導と評価の一体化」を目指した教育実習体制を構築する。

- ・教育実習評価指標に基づく教育実習（ふり返りアンケート、追跡アンケート等）

◎教員の資質・能力を向上させるために、学部・大学院と連携した研究や、大分県教育委員会等と連携した教員研修を実施する。特に、「GIGAスクール構想」における教育の充実を図るために、授業をはじめとした教育活動におけるICT器機やデジタル教科書を活用して教育効果を検証し、その成果を地域に還元する。

- ・授業公開、研修会の実施、研究成果の公開（開催数、参加者数等）
- ・研修参加者への事後調査、活用実績に基づく効果検証（追跡アンケート等）
- ・ICT器機等の活用による教育効果の検証（ICT活用事例集の公開等）



第5期～第6期（2028～2040）：多様な子ども達の発達支援・指導の教育実践モデルの開発や附属学校園等と連携した学際的・総合的・国際的教育研究の充実・発展を図り、世界から注目される個と社会のウェルビーイングを追求する次世代型教育モデルを創造し続ける。（大分大学ビジョン2040の実現に向けたロードマップより）

附属小学校の使命と研究～大分県教育委員会との関係から

背景

附属刷新プラン～教育を取り巻く環境変化に対応していくために～

(附属学校が抱える課題を解決するため、平成26年1月31日、県教育委員会と大分大学との間で取り交わされた)

1. グローバル人材を育成します。

～原則3年後には各市町村で活躍できる英語教育の中核人材の育成～

①小学校：英語によるコミュニケーション能力育成授業（全学年）②中学校：英語のみ使用授業※中学校卒業段階で日常会話可能レベルまで引き上げ、英検等を活用して可視化③ネイティブスピーカーによる、附属学校園教員対象の英会話スキルアップ講座

2. やりがいのある職場環境に変えます。

①学校現場で必要とされ、日常の教育実践に生かされる実証研究の実施②年次性の徹底見直し③適正な勤務時間の徹底

3. 県及び市町村教委との行動連携を強化します。

①教育課程研究協議会に参加し、先行して実証研究の発信②出前授業の実施③通常授業の常時視察を受入れ

県教育委員会と大分大学教育学部等との連携推進協議会

(県教委と大学とで設置、年2回開催。学部、教職大学院に関すること、地域の教育課題解決に資する附属校園の研究に関すること、教職員の資質・能力向上に視する附属校園の取組、研修機能に関することなどを協議)

令和5年度重点課題：学習指導要領に対応した教科指導の検証及び公立学校への普及、働き方改革の取組の検証及び公立学校への普及

- a) 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した取組～新大分スタンダードを踏まえて
 - ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した単元の指導計画作成による授業改善の事例提示
 - ・授業におけるICT器機やデジタル教科書の効果的な活用の事例提示
 - ・教科担任制による教科指導力の向上
- b) a)及び県の教育課程研究協議会にかかわる各教科等の授業公開と事後研の実施
- c) 働き方改革の取組の紹介
- d) 附属小学校における取組を公開・普及する方策の検討（例：義務教育課が主催する会議の場で紹介、教育庁チャンネルやオンラインによる発信、ICT活用優良授業チャレンジ（教員用ポータルサイト）への優良事例の提供等）



王子キャンパス研究委員会

○四校園協働研究推進委員会（連携統括長、四校園長、四校園研究主任で構成。年3回）

- ・附属四校園の研究・連携体制：一体的組織運営、統括長によるマネジメント
- ・附属四校園の一体的改革：研究体制の一体的整備（人材バンク）、地域との連携、モデル校としての機能充実（県の教育課題の採用・還元）
- ・協働研究テーマ：連携推進協議会から採用された「重点課題」及び「グローバル人材育成（①挑戦意欲と責任感・使命感②多様性を受け入れ協働する力③大分県や日本への深い理解④知識・教養に基づき論理的に考え伝える力⑤英語力、の5つの力の総合力）」

○外国語活動小中連携会議

○総合的な学習の時間小中連携会議